

## 行政視察報告書

委員会名（会派名）	創成	報告者	小林由明 高橋妙子
視察日程	令和7年2月18日～2月19日		
調査事項 及び 視察地	① 石川県立図書館 ② 富山市立図書館 ③ Fork toyama ④		
参加議員（委員）	小林由明 岡山秀義 齋藤和也 小林秋光 稲村隆行 高橋妙子		
①	<p><b>【調査目的・内容】燕市立図書館の今後の議論に向けた調査</b></p> <p>□ 概要 石川県立図書館は、金沢大学工学部跡地に建設された地上4階、地下1階の図書館施設である。延べ床面積は約22,000㎡、開架冊数約30万冊、書庫収納冊数約200万冊を有し、閲覧席は約500席。総事業費は約150億円。2022年3月竣工式が行われ、愛称は「百万石ビブリオバウム」と命名された。</p> <p>□ 特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外観：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ めくられる本のページをイメージしたデザインであり、金沢の街並みに調和しつつも重厚感のある外観を呈する。</li> </ul> </li> <li>● 内装：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ローマのコロッセオを彷彿とさせる円形劇場のようなデザインであり、中心部から3階にかけて書棚が連なっている。</li> </ul> </li> <li>● 書棚：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表紙が見えるように配置され、書店のような回遊性を生み出している。</li> </ul> </li> <li>● 閲覧スペース：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多種多様な椅子が配置され、利用者は思い思いの場所で読書を楽しむことができる。3階には本格的な調べ物に対応するテーブル席も用意されている。</li> </ul> </li> <li>● 色彩設計：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 館内は加賀五彩（藍、臙脂、黄土、草、古代紫）でエリア分けされ、石川県らしさを演出している。</li> </ul> </li> <li>● ブリッジ：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3階の渡り廊下からは館内を360度見渡せ、特別な空間体験を提供している。</li> </ul> </li> <li>● 貸出：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 館内各所にセルフ貸出機が設置され、利便性に配慮している。</li> </ul> </li> </ul> <p>□</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● デザイン：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外観、内装ともに洗練されており、利用者の知的探求心を刺激する空間設計となっている。特に、コロッセオをイメージした中央の吹き抜け空間は圧巻である。</li> </ul> </li> <li>● 利便性：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な閲覧スペースやセルフ貸出機の設置など、利用者の利便性を考慮した設計がなされている。</li> </ul> </li> <li>● 地域性：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 加賀五彩の採用や外観デザインなど、石川県の伝統や文化を随所に感じることができる。</li> </ul> </li> </ul>		

石川県立図書館が令和4年7月に策定したサービス計画と、その中期経営プランをまとめた内容は以下の通りである。

### 1. サービス計画策定の背景と目的

石川県立図書館は、老朽化による移転・建替えを機に、県民の多様な文化活動・交流の場となることを目指し、新たな図書館像を提示するサービス計画を策定した。

### 2. 基本理念と重点戦略

サービス計画では、基本理念を「思いもよらない本との出会いや体験によって、自分の人生の1ページをめくることができる場所」と定めている。

この理念を実現するため、以下の4つの重点戦略と9つの施策を掲げている。

#### ○ 重点戦略

- 知的な活気にあふれ、新たな出会いと進歩を後押しする
- 県民に寄り添い、県民とともに成長する
- 知と文化の象徴として多様な情報を集積する
- 唯一の「県立」として、積極的に幅広い連携・支援・発信を担う

#### ○ 施策

- 知識を深め、アウトプットに役立つ場・体験の提供
- 多くの県民を惹きつける魅力的なイベントや企画展の実施
- 県民が抱えるライフステージ上の悩みや課題へのサポート
- 幅広い利用者に対応した多様なサービスの提供
- 図書館を支えるハイレベルな職員の養成
- 石川ならではの情報を含む多様な資料の収集・整備
- 快適な情報へのアクセスと閲覧環境の提供
- 県内の図書館や学校の支援、高等教育機関や文化施設等との連携・支援
- 効果的で訴求力のある広報の展開

### 3. 具体的取組み（中期経営プラン）

各重点戦略に基づき、具体的な取組み内容を定めている。

モノづくり体験、食文化体験、イベント開催、企画展、テーマ別エリア、参考資料・医療情報の充実、情報リテラシー向上、児童サービス、ユニバーサルサービス、職員研修、資料収集・整備、情報アク

セス環境整備、連携事業、広報活動など、多岐にわたる事業を計画している。

#### 4. 点検と評価

サービス計画の進捗状況は定期的に点検・評価され、必要に応じて見直しが行われる。

評価指標としては、年間来館者数、利用者カード新規登録者数、年間貸出冊数、検索システムでの検索可能件数、利用者満足度などが挙げられる。

#### 5. 組織体制

4つの課（経営管理課、利用創出課、閲覧サービス課、歴史公文書・郷土資料課）体制で運営する。

司書を含む正規職員の増員、業務委託や機械化による効率化を図る。

#### 6. 条例と運営要綱

石川県立図書館の設置、事業内容、利用方法などを定めた条例と、協議会の運営要綱が定められている。

#### 【所感】

は供用開始約3年、年間100万人超の日本一の来館者数を誇っており、その人気は高く都市に与える様々な効果があると考えられる。図書館機能だけでなく、図書館が今後、都市経営に与える影響についても注視したい。

#### 【調査目的・内容】 燕市立図書館の今後の議論に向けた調査

##### 1. 施設概要

- 施設名：富山市立図書館本館（TOYAMA キラリ）
- 所在地：富山市
- 竣工年月：2015年8月
- 設計：隈研吾建築設計事務所
- 構造：地上4階、地下1階
- 延床面積：約15,000m<sup>2</sup>
- 蔵書数：約45万冊
- 施設内容：図書館、ガラス美術館、カフェ、ショップ
- 総事業費：約130億円

##### 2. 視察内容

- 外観：立山の氷の岩脈をイメージした外観は、ガラスを多用し、光の反射が美しい。
- 内装：富山県産の杉材をふんだんに使用した内装は、温かみがあり、居心地の良さを感じさせる。
- スパイラルボイド：館内を斜めに貫く吹き抜けは、開放感があり、印象的。
- 図書館：一般図書、児童図書、専門誌など、多様なニーズに対応する蔵書構成。
- ガラス美術館：ガラス工芸品を展示し、富山の文化を発信する拠点。
- その他：カフェやショップなど、利用者の利便性を高める施設も充実。

##### 3. 評価点

- デザイン性：隈研吾氏設計による建物は、外観、内装ともに美しく、図書館のイメージを一新する斬新なデザインである。
- 機能性：図書館、美術館、カフェ、ショップなど、多様な機能を持つ複合施設であり、利用者の満足度を高める工夫がされている。
- 地域性：富山県産の杉材を使用するなど、地元の資源を有効活用している。
- 利便性：市内電車駅から徒歩圏内であり、アクセスも良好である。

4. 課題点

- ・ 維持管理：美しい建物を維持するためには、定期的なメンテナンスが必要である。
- ・ 情報発信：施設の魅力を十分に発信し、集客力を高める必要がある。

【所感】

- ・ 富山市立図書館キラリは、デザイン性、機能性、地域性に優れた複合施設であり、富山市の文化振興に大きく貢献している。
- ・ LRT といった充実した公共交通により、多世代が訪れやすい施設になっており、多くの方が知へのアクセスを高め、かつ歩いて暮らせる利便性の高い健康的な都市を実現している。

【調査目的・内容】

学童施設の在り方、子どもたちの健全な育成を学び今後活かすことを目的とする。

【所感】

- ・ 「みんなで営む」という意味を持つ民営化を掲げる forktoyama は、運営費の6割が寄付金3割が助成金、1割がカフェの売上でまかなわれており、保育料は完全無料となっている。
- ・ 登録児童は54人であり、誰もが子育てに参画できて、まちや社会全体で子どもを育てようとする仕組みを提供しているところは、燕市のみならず今の日本全体でも「そうであって欲しい」と思わせる取り組みであり、非常に興味深い。
- ・ 奇跡の村と呼ばれている富山県舟橋村の平均年齢は40歳であり、1990年に1371人だった人口は2024年9月時点で3303人と2.4倍になった。
- ・ 駅のは図書館も併設されており、送迎待ちの子どもたちの居場所としても利用されている。
- ・ 村全体で子どもを見守り、育てていこうとする姿は、やはり魅力的であり、ここに住みたいと思わせてくれるには十分なマチの形であった。
- ・ 今回の視察で学んだこと、感じたことを燕市の子育て環境やまちづくりの一環に活かしていきたい。

③

【調査目的・内容】

【所感】

④

【視察の様子】

① 石川県立図書館



② 富山市立図書館



令和 7 年 3 月 4 日